

NO!リニア

No. 36
2011年1月21日
JR東海労働組合
リニア反対プロジェクト

南アルプスの環境破壊を懸念 環境省が意見書提出!

1月17日、環境省は交通政策審議会・中央新幹線小委員会に対し、「中央新幹線小委員会中間とりまとめに対する環境省意見」を提出しました。JR東海が南アルプスルートが強引的に推し進め、中央新幹線小委員会が了承したような「まとめ」に十分な調査実施を求めたのです。主な内容は以下の通りです。

- ★伊那谷ルート、南アルプスルートの2案について、環境調査が実施されていることから、当該環境調査に基づき、環境影響の予測・評価を行うべきである。
- ★今後、トンネルの位置等具体的な事業内容を含むルート案を設定し、具体的な環境影響を検討することが、環境影響の回避・低減の上から有効である。事業者が決定された段階において、事業者が具体的なルートを絞り込んでいく計画段階から環境配慮を実施すべきである。
- ★国立・国定公園の保護・利用に影響を及ぼすことのないようなルート・構造等を検討すべきである。
- ★大井川源流部には原生自然環境保全地域があるので、極力近づかないようなルートを検討すべきである。
- ★赤石山脈及び巨摩山地以外でも、環境省レッドリスト記載種が生息・生育しており、これらの動植物・生態系への影響が極力小さくなるようなルート・構造等を検討すべきである。

1月17日、環境省は「中央新幹線小委員会中間とりまとめに対する環境省意見」を提出した。意見書は、動植物や生態系への影響が極力小さくなるルートや構造を検討すべきだ」と指摘。さらに、トンネル掘削により大量の土砂が発生するため、残土処分場の増設工事や、地下水への影響についても十分な調査を実施するよう求めた。

【足立穂子】

昨年12月にまとめられた中間報告は、JR東海が関係し、南アルプスを貫通する「南アルプスルート（鹿野ルート）」の採用が適切とした。年度内にも国交相に最終報告が提出される。

環境省は「国の交通政策審議会中央新幹線小委員会がまとめたりニア中央新幹線（東京―大阪間）整備計画の中間報告に対し、優れた自然が残る南アルプス国立公園などに影響を及ぼさないルートや構造を検討すべきだとする意見書を国土交通省に提出した。事業の計画段階で環境配慮を求める「戦略的環境アセスメント導入ガイドライン」に基づいて提出した。